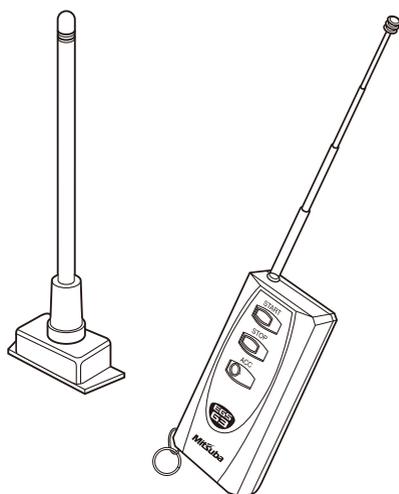


リモコンエンジンスターター EGS-G3

取付・取扱説明書（保証書付）

- ☆このたびは、EGS-G3をお買い上げ頂きましてありがとうございます。
- ☆ご使用になる前に、本冊子を必ずお読み頂き、正しくご使用下さい。
- ☆お読みになった後も、本冊子は必要な時ご利用出来るように大切に保管して下さい。
- ☆本商品を譲渡される場合や別の車に取り付け直す場合も、本冊子を必ず商品に付帯させ、お使いになる方がいつでも見られる様にして下さい。
- ☆本商品は日本国内でのみご使用出来ます。



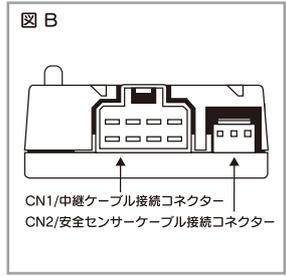
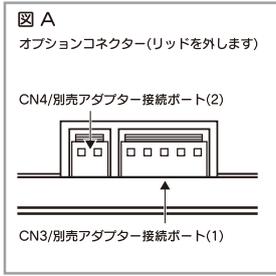
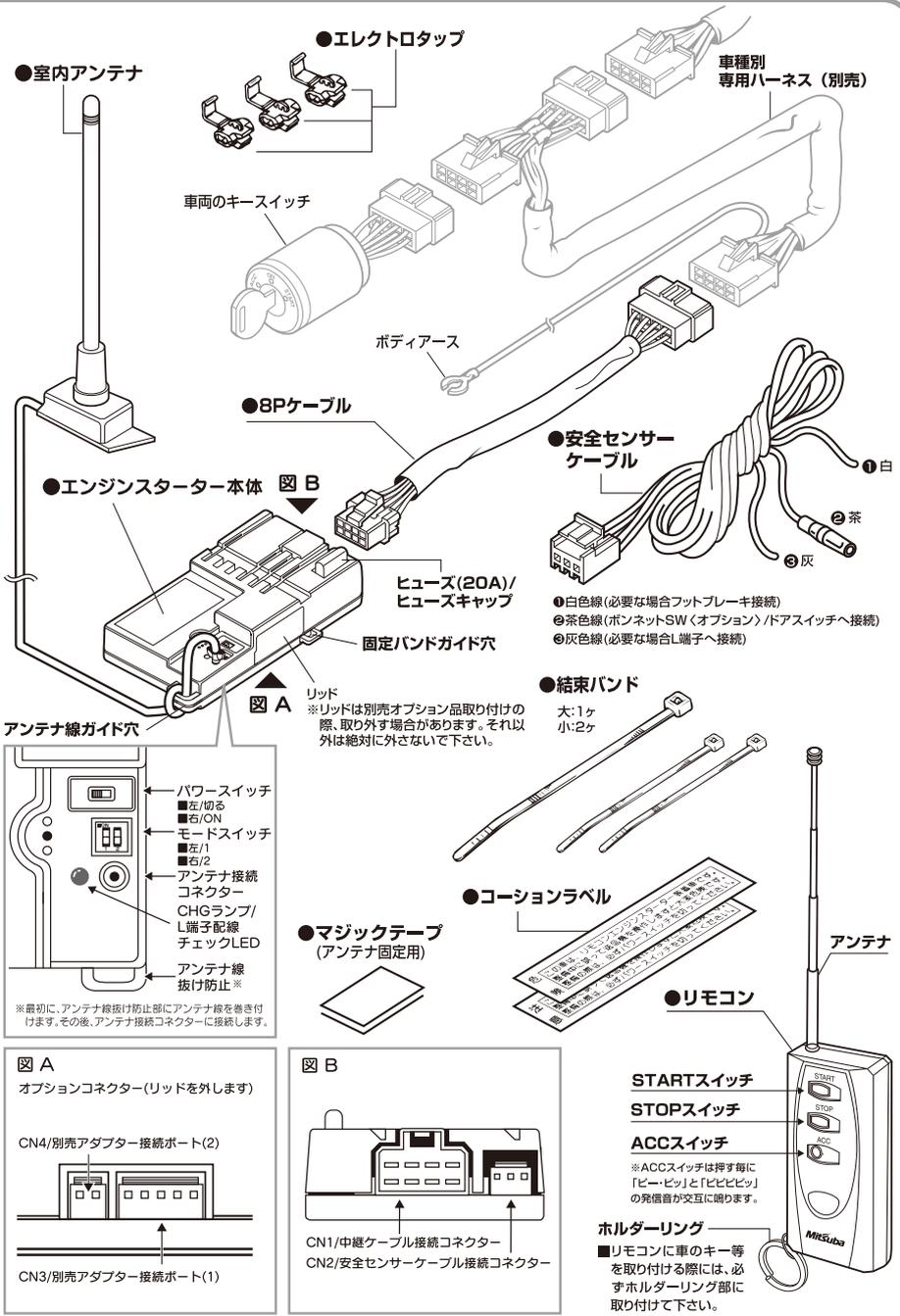
この取付・取扱説明書では安全上重要な項目に下記のマークを表示しています。各マークの意味は次の通りです。

.....
⚠ 危険 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを意味します。

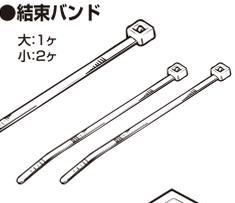
⚠ 警告 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定されることを意味します。また、法律に違反することを意味します。

⚠ 注意 取り扱いを誤った場合、傷害を負う危険が想定されることを意味します。また、商品を損傷、故障させる恐れがあることを意味します。

パッケージ内容 ※接続前に、内容をお確かめ下さい。



- ① 白色線 (必要な場合フットブレーキ接続)
- ② 茶色線 (ボンネットSW (オプション)/ドアスイッチへ接続)
- ③ 灰色線 (必要な場合L端子へ接続)



はじめに	<ul style="list-style-type: none"> ■パッケージ内容 2 ■目次 3 ■取り付け可能な車の条件 4 ■安全に使用するための注意 5~7 <ul style="list-style-type: none"> □安全上の注意 (5~6) □使用上の注意 (7) 	はじめに
取り付け作業	<ul style="list-style-type: none"> ■取り付け前の準備 8 ■取り付け概念図 8 ■専用ハーネス・エンジンスターター本体の接続 9 ■オートマチック車の登録 10 ■動作確認をします 11 <ul style="list-style-type: none"> □エラー発生時のQ&A (11) ■うまく動作しない場合の対応 12~15 <ul style="list-style-type: none"> □L端子検出方式への変更 (12) □L端子誤配線チェック機能 (12) □始動パターンの切替（グロー設定・解除） (13) □キー始動学習機能の設定 (14) □フットブレーキ検出方式への変更 (15) ■仕上げ 16 <ul style="list-style-type: none"> □室内アンテナの取り付け (16) □未使用端子の処理、エンジンスターター本体の取り付け (16) □コーションラベルの貼り付け (16) 	取り付け作業
操作方法	<ul style="list-style-type: none"> ■リモコンでエンジン始動 17 ■リモコンでエンジン停止 17 ■タイマーで自動停止 17 ■アイドリング時間の設定 18 ■ターボタイマー機能について 19~20 <ul style="list-style-type: none"> □ターボタイマーの設定／解除方法 (19) □ターボタイマーの使用法 (20) □リモコンでターボタイマー停止 (20) ■スリープ機能について 20 ■本機の電源を切る時は 20 	操作方法
オプション	<ul style="list-style-type: none"> ■運転席ドアスイッチ配線を行う場合 21 ■ボンネットスイッチ（別売）を取り付ける場合 22 ■ボンネットスイッチ（別売）取り付けとドアスイッチ配線の両方を行う場合 22 ■オプション品（別売）のご案内 23 ■「ミツバG-System」について 23 <ul style="list-style-type: none"> □本機のリモコンで「ミツバG-System」対応商品进行操作する場合 (23) 	オプション
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■メンテナンス 24 <ul style="list-style-type: none"> □電池の交換方法 (24) □リモコンを紛失したときは (24) ■故障かな?と思ったら 25~26 ■仕様 26~27 <ul style="list-style-type: none"> □リモコンのブザー音について (26) □エンジンスターター本体のブザー音について (26) □エンジンスターター本体部のモードスイッチについて (26) □保証規定 (27) ■アフターサービスについて 28 <ul style="list-style-type: none"> □保証書 (28) 	その他

取り付け可能な車の条件

●「EGSシリーズ適応車種一覧表」に記載されている車種であること。

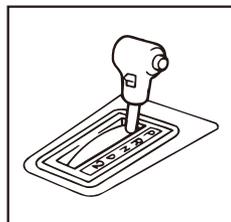
他のエンジンスターター、もしくはターボタイマー用ハーネスを流用・加工しての取り付けは絶対にしないで下さい。「EGSシリーズ適応車種一覧表」をよくご覧になり、車に適合した当社製専用ハーネスをご使用下さい。

●スターター作動時間が2.5秒以内でエンジンが始動出来る車であること。

適応車種は、以下の条件を考慮して選定しております。

○オートマチック車であること。

エンジンスターター本体のオートマチック車判別機能により、マニュアル車への取り付けは出来ません。

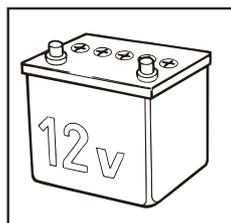


○国産車であること。

外国車への取り付けは出来ません。

○12V車であること。

24V車への取り付けは出来ません。

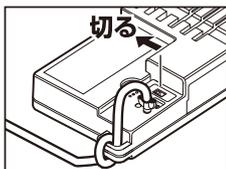


○電子燃料噴射装置搭載車であること。

電子燃料噴射装置搭載車、及び一部のディーゼル車で、イグニッションキーのみでエンジンが始動することが出来る車のみ、取り付けが可能です。エンジン始動時にアクセル操作やチョークレバー操作を必要とする車、電子制御キャブレター搭載車への取り付けは出来ません。

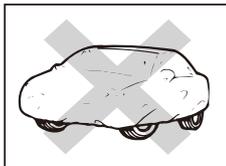
安全上の注意

危険



下記の場合には、パワースイッチを切って下さい。事故の恐れがあります。

- 整備、車検等で車を預ける場合。
- 整備、車検等を行う場合。
- 当商品の取り扱い方を知らない方が運転する場合。



車にボディカバー等を掛けたままで使用しないで下さい。火災の恐れがあります。



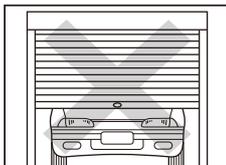
人(特にお子様)やペットが車内にいる時は、絶対にエンジンを始動しないで下さい。お子様による車の操作やペットの思わぬ動きが重大事故につながる恐れがあります。



リモコンでエンジンを始動する時は、車の近くに燃えやすい物が無いことを確認して下さい。火災の恐れがあります。



リモコンは、お子様の手の届く所には、置かないで下さい。事故の恐れがあります。

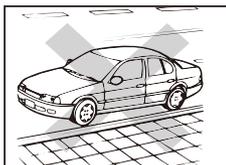


密閉されたガレージ内では使用しないで下さい。排気ガスが充満して危険です。



ボンネットを開ける時はパワースイッチを切って下さい。安全のため別売のボンネットスイッチの取り付けをお勧めします。事故の恐れがあります。

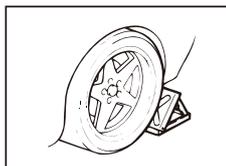
警告



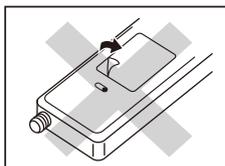
公道上では使用しないで下さい。公道上での使用は違法となります。



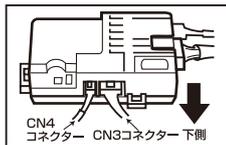
この商品は特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けております。分解・改造することは法律で禁じられていますので絶対にしないで下さい。



斜面上で使用される場合は、必ず輪止めをして下さい。



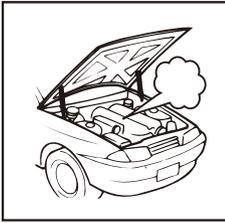
リモコン裏面のラベルをはがしたり、ラベルの無いものを使用することは法律で禁じられていますので絶対にしないで下さい。



エンジンスターター本体のケーブル接続端子部に、ドライバー等の金属を接触させたり、異物を入れたりしないで下さい。内部でショートし発火する恐れがあります。オプション品の取り付け等で、リッドを外した場合にはCN3、CN4のコネクター面が下を向くように設置して下さい。

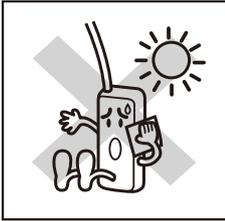
安全に使用するための注意

注意

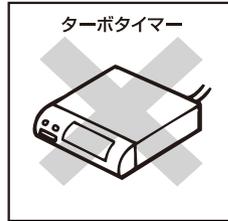


暖気運転を行った直後に運行前点検を行うと火傷をされる恐れがあります。ご注意ください。

●リモコンでエンジン始動中は、エアコン（ヒーター）以外のスイッチはOFFにして下さい。リヤ熱線や大容量のオーディオ等を併用されると、一部の車種ではハーネス接続部周辺が発熱し故障の原因となる恐れがあります。

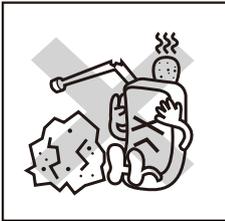


リモコンは、高温になる場所には放置しないで下さい。変形、変色や故障の原因となります。



ターボタイマー

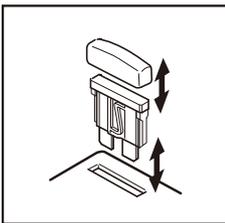
指定の盗難警報機（別売）を除き、他のエンジンスターターやターボタイマー、盗難警報装置との併用は、絶対しないで下さい。故障や誤動作の原因となります。



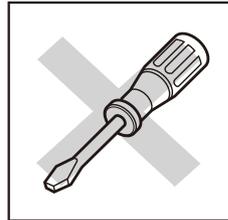
リモコンは落としたり、硬い物にぶつけないで下さい。また、アンテナは無理な力で引き伸ばしたり、収納したりしないで下さい。故障の原因となります。



リモコンは水に濡らさないで下さい。衣類のポケット等に入れたまま、洗濯しないように充分ご注意ください。故障の原因となります。



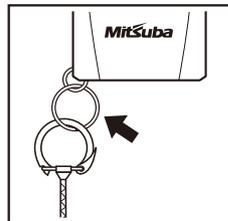
ヒューズ切れの直後はヒューズ部が高温となりますので、交換には注意して下さい。また、交換作業後はヒューズキャップを必ずつけて下さい。なお、一部車種については動作中、ヒューズ周辺の温度が上がる場合がありますのでご注意ください。



本機の内部に異物を入れないで下さい。また、分解、改造は絶対しないで下さい。故障の原因となります。

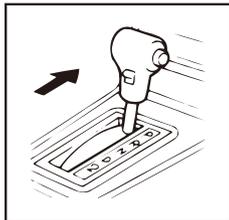


リモコン本体が汚れた場合は、薄めた中性洗剤をしみ込ませた布をよくしぼってふき、乾いた布でもう一度ふいて下さい。ベンジン、シンナー等は絶対に使用しないで下さい。変形、変色や事故の原因となります。

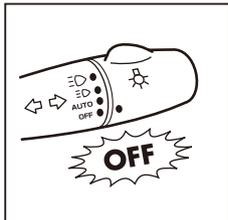


リモコン本体にキーホルダー等を取り付ける場合は、必ずホルダーリング部に取り付けて下さい。破損の原因となります。

使用上の注意

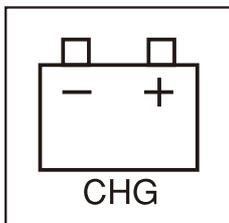


シフトレバーは必ずPレンジに入れて使用して下さい。Nレンジでは使用しないで下さい。パーキングブレーキは、必ずかけて下さい。

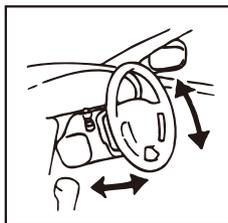


オートライト装着車に取り付けの場合、オート状態のまま夜間にリモコンにてエンジンを始動すると、車のライトが点灯してしまい、リモコン停止や自動停止後に消灯しません。そのためバッテリー上がりの原因となりますので、ライトスイッチはOFFの状態でご使用下さい。

一部の車種では「オートライトアダプター」(別売)を取り付けて頂くことで、オート状態でも使用出来るようになります。



キーでエンジンを始動した後に、充電警告灯が消えない車は、エンジンスターターを使用せずに車の点検整備をして下さい。



オートチルト及びマイコンリセットステアリング装着車にお取り付けの場合、リモコンでのアイドリング中に、車のキーを差し込んでもステアリング機能は動きません。エンジンを止めて、再度キーを使ってエンジン始動を行って下さい。

ドアスイッチ配線を行うことで、ドアを開けると同時にエンジンを停止させることも出来ます。詳しくは21ページを参照して下さい。

- リモコンドアロックあるいは、キーレスエントリー装着車では、エンジン駆動中(本機リモコンでのエンジン駆動中も含む)リモコンによるドアロック・アンロックの操作が出来なくなる車種があります。一度エンジンを止めるか、キーでドアを開けて下さい。

「キーレスアダプター」(ミツバG-System:別売)を取り付けて頂くことで、本機リモコンのACCスイッチでドアロック・アンロックが出来るようになります。

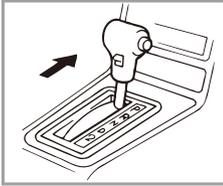
(但し、一部の車種を除きます。必ず「EGSシリーズ適応車種一覧表」でご確認下さい。)

- バッテリーの弱っている車や改造車では、正常にエンジン始動出来ない場合があります。
- 環境保護のため必要以上のアイドリングは行わないで下さい。

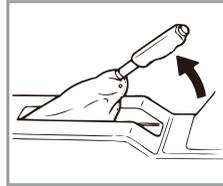
- リモコンを操作する時はアンテナを十分に伸ばして下さい。電波到達距離は、周囲の環境、室内アンテナの設置状態、リモコンの扱い方等によって変化します。一般的に建物内や周囲に鉄筋コンクリートの建築物があったり、高圧送電線や大出力の無線等のノイズ発生源があったりすると到達距離は短くなります。また、送信時にアンテナを収納したりリモコンを手等で覆うと短くなりますので、ご注意下さい。

- 寒冷地では、エンジンがかかりにくいことがあります。キー操作のみで2.5秒以内にエンジンが始動するように車を整備して下さい。

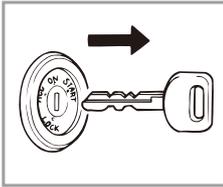
取り付け前の準備



●シフトレバーは、必ずパーキングレンジに入れて下さい。



●パーキングブレーキは確実にかけて下さい。

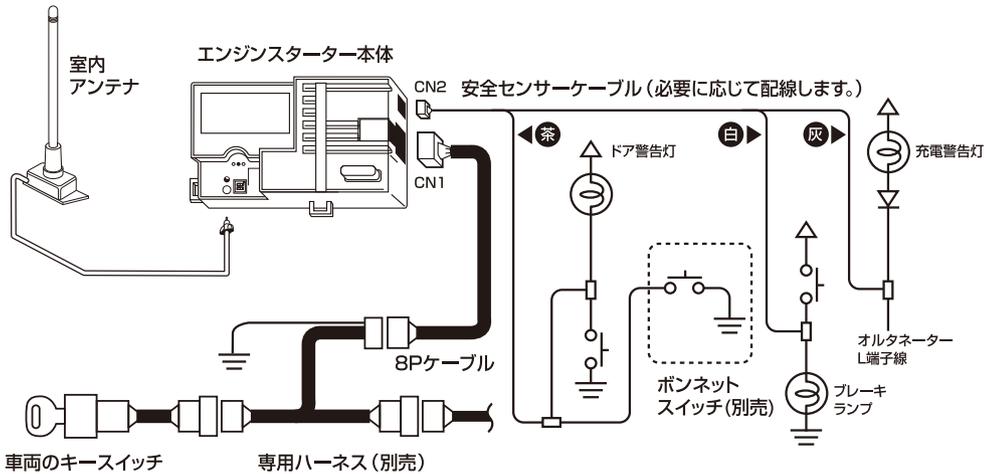


●車のキーは必ず抜いて下さい。



●取り付け工具について。
プラスドライバー・プライヤー・ニッパ・スパナ・テスター等。工具は本商品には同梱されていないので、別途ご用意下さい。

取り付け概念図



専用ハーネス・エンジンスタート本体の接続

ステップ1

キースイッチの配線カプラーを探します。

配線カプラーの位置は大別すると次の様になります。詳しくは「EGSシリーズ適応車種一覧表」をご参照下さい。

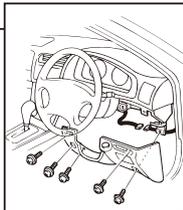
メモ キースイッチの配線カプラーは基本的に車種別専用ハーネスのカプラーと同形状なので、それを目安して下さい。

■タイプ1

- アンダーカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。

メモ

アンダーカバーを外す際、車種によってはスピーカーカバー内や、コインポケット等に隠しネジが付いている場合があります。

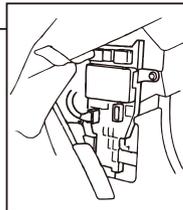


■タイプ3

- ヒューズボックスやジャンクションブロックに直接接続されているタイプ。

メモ

ホンダ車の場合、アクセルペダル横のヒューズボックス内に接続されている場合もあります。

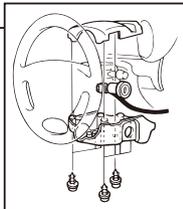


■タイプ2

- ステアリングコラムカバーを外し、キーシリンダーに直接接続されているか、もしくはキーシリンダー直近に位置しているタイプ。

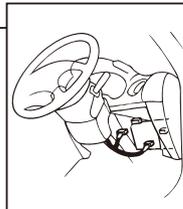
メモ

ステアリングコラムカバーを外す際、車種によってはステアリングを90度回さないとネジが外せない場合があります。



■タイプ4

- 配線カプラーが2箇所に分かれているタイプ。それぞれの位置が離れているものもあります。



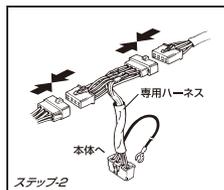
取り付け作業

ステップ2

専用ハーネスを接続します。

発見したキースイッチの配線カプラーを一旦外します。車種別専用ハーネスを、外したカプラーの間に割り込ませます。

注意 カプラーの接続は振動で外れないように、最後まで確実に差し込んで下さい。本体がうまく作動しないことがあります。



ステップ2

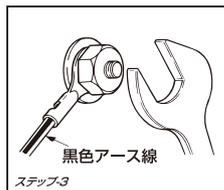
ステップ3

アース線を接続します。

車種別専用ハーネスから出ている、黒色アース線を車体の金属部分に確実に締め付けます。これにより間接的にバッテリーのマイナスに接続されます。接続箇所を充分確認の上、適正な場所に接続して下さい。

注意

塗装されている金属部分や、車の振動等で緩んでしまう場所に取り付けしないで下さい。動作が不安定となり、オートマチック車の登録情報が消去されたり、エンジンが始動しない等の不具合が生じます。

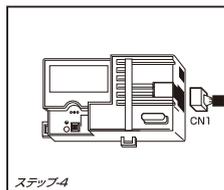


ステップ3

ステップ4

エンジンスタート本体と専用ハーネスを接続します。

エンジンスタート本体のコネクター部(CN1)と専用ハーネス先端コネクター部を8Pケーブルで接続します。



ステップ4

以上で接続は終了です。

次に必ずオートマチック車の登録をして下さい。

オートマチック車の登録

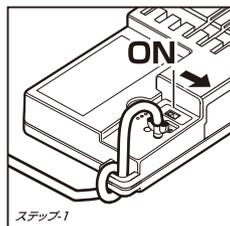
M/T車への取り付け防止のためのA/T車判別機能を搭載しています。
(取り付けた時にA/T車の認識作業を行いますので、M/T車にはお取り付け出来ません。)
登録作業中はエンジンを始動させないで下さい。誤って始動させた場合、ステップ1からやり直して下さい。

ステップ1

1 エンジンスターター本体のパワースイッチをONにします。

この時、エンジンスターター本体から、「ブーブー ブーブー…」と断続音が鳴り続けます。

メモ ブザーが鳴らない場合は、アースが確実に取れているか、また車種別専用ハーネスの品番が間違っていないか、再確認して下さい。

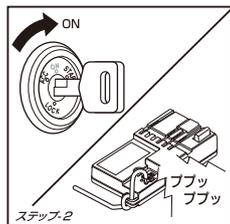


ステップ2

2 キーをONの位置にします。

この時、エンジンスターター本体からの断続音が、「ブブッ ブブッ…」の2連音へと変化します。

メモ この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。もし始動させた場合、ステップ1からやり直して下さい。



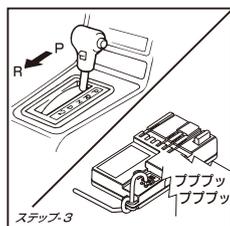
ステップ3

3 シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かします。

エンジンスターター本体からの断続音が、「ブブブッ ブブブッ…」の3連音へと変化します。

注意

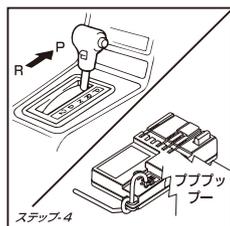
- ・シフト操作は、ブレーキを踏んでゆっくり操作して下さい。
- ・断続音が変わることを必ず確認して下さい。断続音が変わらない場合は一度作業を中断し、専用ハーネス付属の「専用ハーネス接続時の注意事項」を確認して下さい。(追加配線を行う必要があります。) なお、追加配線後はステップ1からやり直して下さい。



ステップ4

4 シフトレバーをRレンジからPレンジへと戻します。

この時、エンジンスターター本体から「ブブブッブー」と音が鳴り、オートマチック車の登録が終わったことを知らせて鳴り止みます。



ステップ5

5 キーをOFFにします。

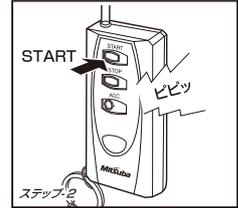
以上でオートマチック車の登録は終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外すとオートマチック車の登録情報が消去されます。この場合には再度オートマチック車の登録を行って下さい。

ステップ 1 本機の動作確認の前に、必ず車を下記の状態にしてください。

警告 周囲の安全を確認の上、パーキングブレーキをしっかりとかけて下さい。シフトレバーは、必ずPレンジにしてください。重大な事故につながる恐れがあります。

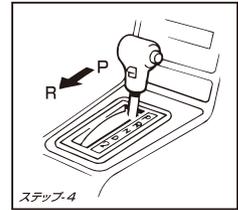
ステップ 2 リモコンのSTARTスイッチを押します。
リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、STARTスイッチを音「ビピッ」が鳴るまで押し続けます。



ステップ 3 エンジンが始動します。
エンジンスターター本体が信号を受信すると、数秒後にスターターが回りエンジンが始動します。エンジン始動後は、エンジンスターター本体から警告音「ブツ」が数秒間隔で鳴り続けます。一度で始動しない場合は、その後2回のリトライ(再始動)動作を行います。

メモ 一部のデジタルメーター搭載車ではリモコン始動後少し遅れてメーターパネルが点灯することがあります。

ステップ 4 シフトセンサーの確認をします。
リモコンでエンジンが始動した後、キーを差さずにフットブレーキをしっかりと踏みながら、シフトレバーをゆっくりとPレンジからRレンジへと動かします。この時、エンジンが止まることを確認します。



メモ 車種によっては、キーを差さないとシフトレバーが動かせないものもあります。その場合は、キーをACCの位置まで回して確認して下さい。

以上でエンジンスターターの動作確認は終了です。
正常に動作しない場合は、下表を参考に対処して下さい。

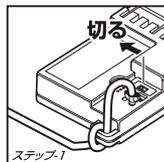
エラー発生時のQ&A

Q (症状)	A (対処方法)
● エンジンが始動しているのに数秒で停止してしまい、自動的に再始動(リトライ)が行われてしまうのですが…?	▶ エンジンの自動始動検出が、うまく行われていないと考えられます。詳しくは、12ページの「 L端子検出方式への変更 」を参照して下さい。
● エンジンが始動していないのにメーターパネルが点灯したままになってしまうのですが…?	▶ 一部のディーゼル車等でグロー(予熱)時間が足りないことが考えられます。詳しくは、13ページの「 始動パターンの切替 (グロー設定・解除) 」を参照して下さい。
● 寒冷時に始動がうまく行けないのですが…?	▶ スターターモーターの駆動時間を学習させることが出来ます。詳しくは、14ページの「 キー始動学習機能の設定 」を参照して下さい。
● スターターモーターの駆動時間が短いため、1回目のスターター駆動でエンジンがからず、リトライしてしまうのですが…?	▶ キー始動学習を行うことで警告灯が消灯ようになります。詳しくは、14ページの「 キー始動学習機能の設定 」を参照して下さい。
● リモコン操作による始動後にABS警告灯が消灯しないのですが…?	▶ オートマチックシフトの検出がうまく行われていないと考えられます。詳しくは、15ページの「 フットブレーキ検出方式への変更 」を参照して下さい。
● リモコン操作によるエンジン始動後、シフトレバーをPレンジからRレンジへと動かしてもエンジンが停止しないのですが…?	

うまく動作しない場合の対応

L端子検出方式への変更

ステップ1 エンジンスターター本体のパワースイッチを切ります。
既に付属の安全センサーケーブルがエンジンスターター本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。



ステップ1

ステップ2 車のオルタネーターから出ているL端子線を探します。
L端子線とは、イグニッションONの位置でエンジンが停止している時、約1~3V、エンジンが駆動している時、約12~14Vになる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)



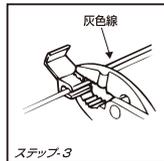
ステップ2

ステップ3 安全センサーケーブルの灰色線を接続します。
安全センサーケーブルの灰色線をグロメット等を利用して、車室内からエンジンルームに引き込み、オルタネーターから出ているL端子線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)



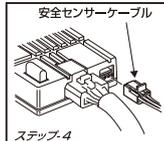
注意

接触不良が起きない様に確実に取り付けして下さい。なお、エレクトロタップは防水のためテーピングして下さい。灰色線がボディの金属部分に触れると、ショートを起こし車両故障の原因となる恐れがあります。



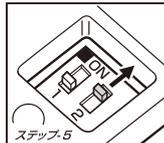
ステップ3

ステップ4 安全センサーケーブルをエンジンスターター本体の接続一部(CN2)に接続します。



ステップ4

ステップ5 エンジンスターター本体のモードスイッチ2をONにします。
スイッチが小さいため、ボールペンの先端等で行って下さい。



ステップ5

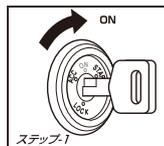
OK! 以上でL端子配線は終了です。

パワースイッチをONにしてリモコンで問題なくエンジン始動出来ることを確認して下さい。なお、接続したL端子が正しいか否かを、エンジンスターター本体の「CHGランプ」の点灯状態で確認することが出来ます。チェック方法は、下記「L端子誤配線チェック機能」に習って行って下さい。

L端子誤配線チェック機能

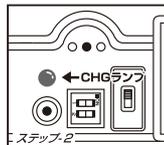
以下のチェック方法は、モードスイッチ2がONのときのみ行うことが出来ます。

ステップ1 キーをONの位置にします。
この時、エンジンスターター本体の「CHGランプ」が点灯することを確認します。「CHGランプ」が点灯しない場合、L端子配線の接続先の間違いや接触不良が考えられます。配線先を見直して下さい。



ステップ1

ステップ2 上記操作後30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。
エンジンが始動すると同時に「CHGランプ」が消灯すれば、L端子配線の接続先は正しく配線されています。「CHGランプ」が消灯しない場合、L端子配線の接続先が間違っていると考えられますので配線先を見直して下さい。なお、30秒以内に操作が完了しないと、確認は出来ません。(エンジンスターター本体から「ピーピー」という警告音がします。)キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



ステップ2

以上でL端子誤配線チェックは終了です。

うまく動作しない場合の対応

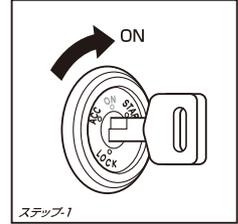
始動パターンの切替（グロー設定・解除）

一部のディーゼル車等で、グロー(予熱時間)が必要な場合、以下の操作をすることによりグローを設定することが出来ます。グローは6秒です。お取り付け時はグロー設定が解除されています。

ステップ 1

キーをONの位置にします。

この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。
以降の操作が出来ません。



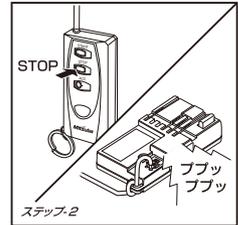
ステップ 2

10秒以内にリモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブブッ ブブッ…」の2連音が鳴ります。

メモ 10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。
キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。

リモコンのスイッチは反応音があったら離して下さい。押し続けると、2〜3秒後に再度STOP信号が送信され、ターボタイマーの設定が解除となります。また、以降の操作が出来なくなります。



ステップ 3

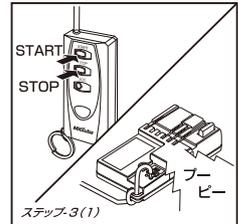
30秒以内に次の操作を行います。

リモコンのSTOPスイッチを押してから30秒以上経過してしまった場合は、エンジンスターター本体から「ビービー」という警告音がして、その後の操作が無効になります。キーをOFFに戻しステップ1からやり直して下さい。

(1)グロー(予熱時間)を設定する場合。

リモコンのSTARTスイッチとSTOPスイッチを同時に押します。

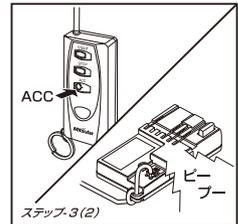
エンジンスターター本体から「ブービー」という音がして、グローが設定されたことを知らせ、鳴り止みます。



(2)グロー(予熱時間)を解除する場合。

リモコンのACCスイッチを押します。

エンジンスターター本体から「ビービー」という音がして、グローの設定が解除されたことを知らせ、鳴り止みます。



ステップ 4

キーをOFFにします。

以上で始動パターンの切替は終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、再度設定する必要があります。

うまく動作しない場合の対応

キー始動学習機能の設定

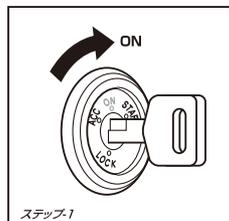
次の様な場合には、キー始動学習機能を設定して下さい。
(エンジン停止状態から始めて下さい。)

- リモコン始動時にABS警告灯が点灯したままとなってしまう。
- スターターモーター駆動時間が短かすぎてエンジンがかかりにくい。

ステップ 1

キーをONの位置にします。

この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。
以降の操作が出来ません。



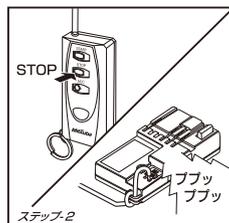
ステップ 2

10秒以内にリモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブッ ブッ…」の2連音が鳴ります。

メモ

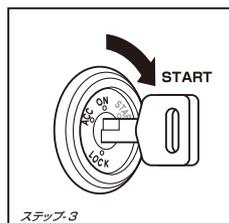
10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。
キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。
リモコンのスイッチは反応音があったら離して下さい。押し続けると、2~3秒後に再度STOP信号が送信され、ターボタイマーの設定が解除となります。また、以降の操作が出来なくなります。



ステップ 3

30秒以内にキー操作でエンジンを始動します。

エンジンスターター本体から「ブブブブ…」と音が鳴りキー始動学習が行われたことを知らせ、鳴り止みます。この時にスターターモーター駆動時間を「0.8~2.5秒」の範囲で学習し、以降リモコン始動時のスターターモーター駆動時間になります。よって、通常使用時と同一環境下で学習操作を行うと効果的です。
30秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。
(エンジンスターター本体から「ピーピー」という警告音がします。)
キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。



ステップ 4

キーをOFFにします。

以上でキー始動学習機能の設定は終了です。

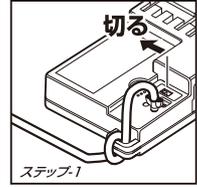
メモ

車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、再度設定する必要があります。

フットブレーキ検出方式への変更

ステップ 1 エンジンスターター本体のパワースイッチを切ります。

既に付属の安全センサーケーブルがエンジンスターター本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行ってください。



ステップ 2 車のフットブレーキスイッチを探します。

フットブレーキスイッチはブレーキペダルの根元付近にあります。

メモ フットブレーキとは、フット式パーキングブレーキのことではありません。



ステップ 3 ブレーキペダルを踏んだとき12Vになる線を見つけてます。

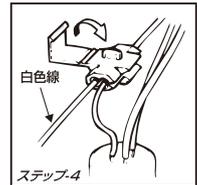
フットブレーキスイッチから出ている線の内、ブレーキペダルを踏まない時は0V、踏んだときに12Vになる線を見つけて下さい。(必ずテスターをご使用下さい。)



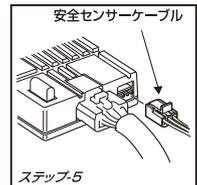
ステップ 4 安全センサーケーブルの白色線を接続します。

安全センサーケーブルの白色線を、ステップ3で見つけた線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)

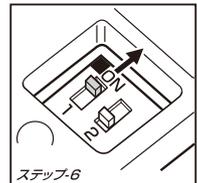
注意 接触不良が起きないように確実に取り付けて下さい。フットブレーキ検出がうまく行われない場合があります。なお、エレクトロタップ部は、防水のためテーピングして下さい。



ステップ 5 安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコネクター部 (CN2) に接続します。



ステップ 6 エンジンスターター本体のモードスイッチ1をONにします。



以上でフットブレーキ配線は終了です。

パワースイッチをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、フットブレーキを踏んだ時にエンジンが停止することを確認して下さい。

室内アンテナの取り付け

ステップ 1

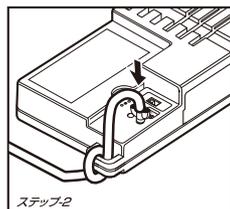
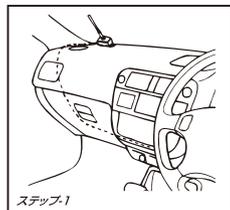
室内アンテナを設置します。

ダッシュボードのサイドビラーから10cm以上離し、出来るだけフロントガラスに近い平らな場所に設置して下さい。



警告

室内アンテナは、運転の妨げにならない場所に設置して下さい。アンテナを手前寄りに取り付けた場合、急ブレーキ等によりアンテナに顔をぶつけてケガをする恐れがあります。ガラス面に近い場所にしっかり固定して下さい。エアバック装着車には、エアバックカバー部へ固定しないで下さい。エアバック作動時にケガをする恐れがあります。



ステップ 2

エンジンスターター本体のアンテナジャックにアンテナ線を差し込みます。

アンテナ線をアンテナ線ガイド穴に通してからアンテナジャックに差して下さい。

未使用端子の処理、エンジンスターター本体の取り付け

ステップ 1

未使用端子の絶縁処理をします。

安全センサーケーブルのドアスイッチ配線を行わなかった場合は、ドアスイッチ配線に付いているゴボシ端子をビニールテープ等で絶縁処理して下さい。



注意 絶縁処理は確実に行って下さい。ショートして誤作動、故障の原因となります。

ステップ 2

配線したケーブル類を整理します。

これまでに配線したケーブル類をビニールテープや付属の結束バンド等で確実に固定して下さい。



警告

配線類が挟み込まれたりすると、断線やショートの原因となり、本体や車の故障、さらには車両火災を起こす可能性があります。ステアリングシャフトやブレーキペダルの可動部付近には固定しないで下さい。運転の妨げになり事故の原因となります。

ステップ 3

エンジンスターター本体を設置します。

エンジンスターター本体を運転操作の邪魔にならない場所に、付属の結束バンド等を使用して設置します。なお、結束バンドで固定する場合は、ケースの固定バンドガイド穴を利用して下さい。



警告

エンジンスターター本体は、直射日光の当たる場所、エアコンの吹き出し口等の高温になる場所や足下の水の跳ね返りや外部からの水に触れる場所には設置しないで下さい。故障の原因となります。ステアリングシャフトやブレーキペダルの可動部付近には設置しないようにして下さい。エンジンスターター本体が干渉した場合、運転操作の妨げになり、事故の原因となります。

ステップ 4

外したアンダーカバー等を元に戻します。

コーションラベルの貼り付け

エンジンルーム内の目立つ場所に貼って下さい。貼り付ける際には汚れや油分等をきれいに除去して下さい。



危険

ボンネットを開けて作業している際に、誤って始動操作が行われると大変危険です。必ず目立つ場所に貼って下さい。

以上で取り付けは終了です。

リモコンでエンジン始動

ステップ 1

あらかじめ車を下記の状態にします。

1. パーキングブレーキを確実にかける。
2. シフトレバーはPレンジに入れる。
3. 必要に応じてエアコンをセットする。
4. オートライト装着車は、ライトスイッチをOFFにする。
5. キーを抜く。



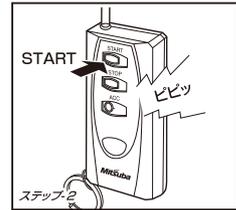
注意

リモコンでエンジン始動中は、エアコン（ヒーター）以外のスイッチはOFFにして下さい。リヤ熱線や大容量のオーディオ等を併用されますと、一部の車種ではハーネス接続部周辺が発熱し故障の原因となる恐れがあります。

ステップ 2

リモコンのロッドアンテナを引き出してSTARTスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、STARTスイッチを音「ビピッ」が鳴るまで押し続けます。



ステップ 3

車のエンジンが始動します。

数秒後、スターターが回りエンジンが始動します。一度で始動しない場合は、3回まで自動的に再始動（リトライ）します。



リモコンによるエンジン駆動中は、リモコン始動直後から数秒間隔でエンジンスターター本体から警告音「ビッ」が鳴り始め、残り時間に連動して徐々に短くなり、自動停止1分前は連続音へと変わり、使用者にキー以外でのエンジン始動を知らせます。

ステップ 4

走行します。

車のキーを差し込み、ONの位置まで回して下さい。あとは通常通り走行出来ます。なお、ドアスイッチへの配線を行っている場合、ドアを開けるとエンジンは停止しますので、キーにて再度エンジン始動して下さい。



警告

キーを回す際に、誤ってSTART (STT) の位置まで回すとスターターモーターを傷める場合があります。

操作方法

リモコンでエンジン停止

本機によるアイドリング中は、リモコン操作でエンジンを停止することが出来ます。

ステップ 1

リモコンのロッドアンテナを引き出してSTOPスイッチを押します。

リモコンのロッドアンテナを最後まで引き出して、STOPスイッチを音「ビーツ」が鳴るまで押し続けます。

ステップ 2

車のエンジンが停止します。

タイマーで自動停止

始動後約20分（初期状態）でエンジンは自動停止します。

自動停止時間は「10分/20分/30分」に変更することが出来ます。

→18ページ「アイドリング時間の設定」参照

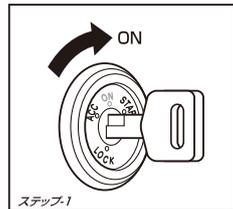
アイドリング時間の設定

リモコンによるエンジン始動の自動停止時間を「10分/20分/30分」のいずれかに変更することが出来ます。
お取り付け時(初期状態)のアイドリング時間は「20分」です。

ステップ 1

キーをONの位置にします。

この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。
以降の操作が出来ません。

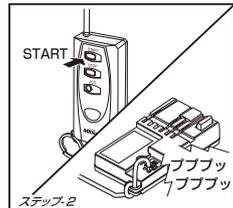


ステップ 2

10秒以内にリモコンのSTARTスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブブブ ブブブ…」の3連音が鳴ります。

メモ 10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。
キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。
リモコンのスイッチは反応音があったら離して下さい。押し続けると、2〜3秒後に再度START信号が送信され、「30分」に設定されます。



ステップ 3

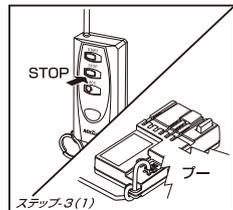
30秒以内に次の操作を行います。

リモコンのSTARTスイッチを押してから30秒以上経過してしまった場合は、エンジンスターター本体から「ピーピー」という警告音がして、その後の操作が無効になります。キーをOFFに戻しステップ1からやり直して下さい。

(1) 『10分』に設定する場合

リモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から「ブー」という音がして、10分が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。

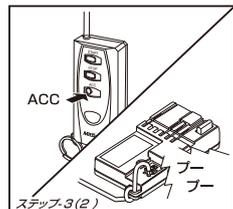


(2) 『20分』に設定する場合

リモコンのACCスイッチを押します。

エンジンスターター本体から「ブーブー」という音がして、20分が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。

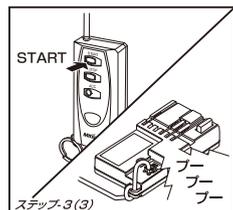
メモ リモコンのACCスイッチは押す毎に、「ピー・ピッ」と「ビビビビッ」音が交互に鳴りますが、設定には支障がありません。



(3) 『30分』に設定する場合

リモコンのSTARTスイッチを押します。

エンジンスターター本体から「ブーブーブー」という音がして、30分が設定されたことを知らせ、鳴り止みます。



ステップ 4

キーをOFFにします。

以上でアイドリング時間の設定は終了です。

メモ 車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、初期設定(20分)に戻ります。

ターボタイマー機能について

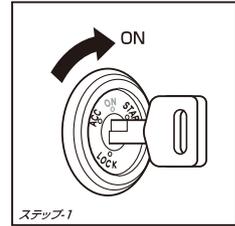
ターボタイマーの設定/解除方法

お取り付け時(初期状態)はターボタイマーの設定が解除されています。

ステップ
1

キーをONの位置にします。

この時、誤ってエンジンを始動させないで下さい。
以降の操作が出来ません。



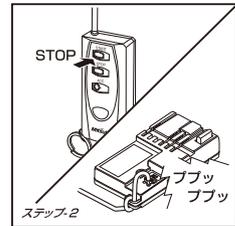
ステップ
2

10秒以内にリモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から断続音「ブッ ブッ…」の2連音が鳴ります。

メモ

10秒以内に操作が完了しない場合は設定出来ません。
キーをOFFに戻し、ステップ1からやり直して下さい。
リモコンのスイッチは反応音があったら離して下さい。押し続けると、2~3秒後に再度STOP信号が送信され、ターボタイマーの設定が解除となります。



ステップ
3

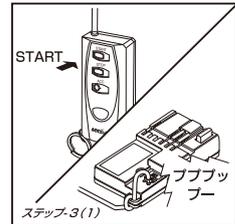
30秒以内に次の操作を行います。

リモコンのSTOPスイッチを押してから30秒以上経過してしまった場合は、エンジンスターター本体から「ピーピー」という警告音がして、その後の操作が無効になります。キーをOFFに戻しステップ1からやり直して下さい。

(1)ターボタイマーを設定する場合

リモコンのSTARTスイッチを押します。

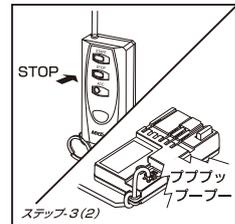
エンジンスターター本体から「ブブブブー」という音がして、ターボタイマーが設定されたことを知らせ、鳴り止みます。



(2)ターボタイマーを解除する場合

リモコンのSTOPスイッチを押します。

エンジンスターター本体から「ブブブブー」という音がして、ターボタイマーの設定が解除されたことを知らせ、鳴り止みます。



ステップ
4

キーをOFFにします。

以上でターボタイマーの設定/解除は終了です。

メモ

車のバッテリーを外したり車種別専用ハーネス(アース線)を外した場合には、再度設定する必要があります。

ターボタイマー機能について

ターボタイマーの使用方法

本機のターボタイマー機能は、フルオート方式を採用しています。
アフターアイドルの時間は、車の走行状況に合わせて自動的に設定されます。

ステップ 1

キー、またはリモコンで、エンジンを始動させます。

ステップ 2

走行します。

少なくとも30秒間は走行状態にしないと、ターボタイマーは働きません。

ステップ 3

走行終了後、シフトレバーをPレンジにしてからキーをOFFにします。

エンジンスターター本体から「プッブッブ」というカウントダウン音がして、ターボタイマーが作動を開始します。



警告

周囲の安全を確認の上、パーキングブレーキをしっかりとかけて下さい。
シフトレバーは、必ずPレンジにして下さい。

- 車によってはターボタイマー作動中にキーが抜けません場合があります。
このような場合は、別売の「日産キーロックアダプター」をご使用下さい。
- 車によっては正常にターボタイマーが作動しない場合があります。
このような場合は、別売の「ターボタイマーストール防止アダプター」をご使用下さい。
- ターボタイマーのアフターアイドル時間は10秒～2分50秒の範囲で自動的に設定されます。

リモコンでターボタイマー停止

リモコンのSTOPスイッチを押すことにより、ターボタイマー作動中のエンジンを停止させることができます。

スリープ機能について

車を使用しない状態が15日間以上続くと、バッテリーの消耗を抑えるスリープ機能が働きます。
スリープ機能が働くと、リモコンによるエンジン始動は出来ません。スリープ機能を解除するときには、パワースイッチを一度切って入れ直すか、キーを使ってエンジンを始動させて下さい。

本機の電源を切る時は

車を車検・整備に出す時は安全のため、エンジンスターター本体のパワースイッチを切って下さい。メモリー機能により、次回お使いになる際も再度オートマチック車の登録やターボタイマーの設定等は必要ありません。エンジンスターター本体のパワースイッチをONにするだけでスイッチを切る前と同じ状態で使用出来ます。



車種別専用ハーネスを外したり、整備の際に車のバッテリー端子を外した場合は、再度オートマチック車の登録からやり直す必要があります。

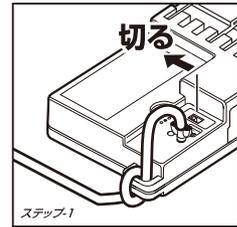
運転席ドアスイッチ配線を行う場合

ドアスイッチへの配線を行うことにより、リモコン始動でのアイドリング中に、ドアを開けるとエンジンを停止させることが出来ます。

ステップ
1

エンジンスターター本体のパワースイッチを切ります。

既に付属の安全センサーケーブルが本体に接続されている場合は、一旦外してから作業を行って下さい。



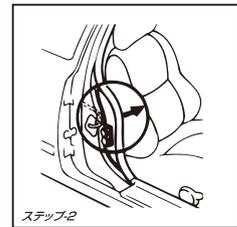
ステップ
2

車の運転席側ドアスイッチ線を探します。

ドアを開けた時は0V、閉めた時に12Vとなる線です。(必ずテスターをご使用下さい。)



半ドア警告灯および、ルームランプの点灯をさせるためのスイッチです。



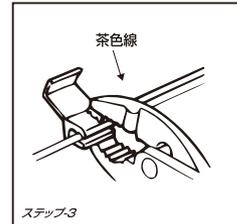
ステップ
3

安全センサーケーブルの茶色線を接続します。

安全センサーケーブルの茶色線先端のギボシ端子部をニッパ等でカットし、ステップ2で見つけた線に接続します。(付属のエレクトロタップ使用。)

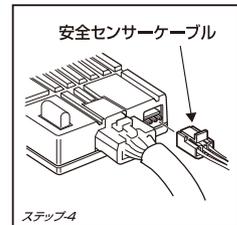


接触不良が起きない様に確実に取り付けて下さい。ドアスイッチ検出がうまく行われない場合があります。なお、エレクトロタップ部は、防水のためテーピングをして下さい。



ステップ
4

安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコネクター部(CN2)に接続します。



以上でドアスイッチ配線は終了です。

パワースイッチをONにしてリモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けた時にエンジンが停止することを確認して下さい。

ボンネットスイッチ (別売) を取り付ける場合

ボンネットスイッチ (別売) の取り付けを行うことにより、ボンネットが開いている時のリモコンでのエンジン始動が出来なくなり、エンジンルーム内の各種作業中の安全を確保出来ます。出来るだけボンネットスイッチの取り付けを行って下さい。取り付けに関しては、ボンネットスイッチに付属の取扱説明書をよくお読み下さい。

ボンネットスイッチ (別売) 取り付けとドアスイッチ配線の両方を行う場合

ボンネットスイッチ (別売) 取り付けとドアスイッチ配線の両方を行うことで、ボンネットが開いたり、ドアが開いたりしている時は、エンジンが動作しないよう安全確保が出来るようになります。



安全センサーケーブルの茶色線は、ボンネットスイッチとドアスイッチの検出を併用するようになっております。両方を配線する場合には別途エレクトロタップ*を1個ご用意頂くことになりますので、あらかじめお買い求め下さい。

*【推奨品】自動車用低電圧線 (AV線) 0.5mm² サイズ適応品

ステップ

1

車の運転席側ドアスイッチ配線をして下さい。

「運転席側ドアスイッチ配線を行う場合」の作業をステップ3まで行った後、以下の作業を行って下さい。

ステップ

2

ボンネットスイッチを取り付けます。

ボンネットスイッチ付属の取扱説明書をよく読み、エンジンルーム内のボンネットスイッチ設置・取り付け作業まで行って下さい。

ステップ

3

安全センサーケーブルの茶色線を接続します。

ボンネットスイッチの茶色線をグロメット等を利用してエンジンルーム内から車室内へ引き込み、先端のギボン端子部をニッパ等でカットします。既にドアスイッチ配線をした安全センサーケーブルの茶色線にご用意頂いたエレクトロタップ等で接続します。



接触不良が起きない様に確実に取り付けて下さい。ボンネットスイッチ検出がうまく行われない場合があります。なお、エレクトロタップ部は、防水のためテーピングをして下さい。

ステップ

4

安全センサーケーブルをエンジンスターター本体のコネクター部 (CN2) に接続します。

ステップ2で途中となっていたボンネットスイッチの取り付け作業も完了させて下さい。

以上でボンネットスイッチとドアスイッチ配線作業は終了です。

パワースイッチをONにして、リモコンでエンジンを始動させ、ドアを開けた時およびボンネットを開けた時にエンジンが停止することを確認して下さい。



ボンネットスイッチとドアスイッチ配線を併用した場合、ボンネットを開けると、半ドア警告及びルームランプが点灯するようになります。これは本機が車側の安全検出を行う回路により点灯するものであり、異常ではありません。

オプション品(別売)のご案内

「EGSシリーズ適応車種一覧表」をよくご覧になり、必要に応じてオプション(別売・取扱説明書付)をご使用下さい。

- **ボンネットスイッチ**
車のボンネットが開いている時に、リモコンでのエンジン始動を出来なくする安全装置です。
- **ホンダレジェンド用DPSアダプター**
レジェンド(型式KA7～9のDPS装着者)ドライビングポジションシステムのチルトステアリングのAUTO機能を作動させることが出来るようになります。
- **日産キーロックアダプター**
一部の車種でターボタイマーの作動中、キーが抜けなくなるのを防止します。
- **ターボタイマーストール防止アダプター**
一部の車種でキーをOFFにし、ターボタイマーを作動させる際、インジケーターランプが一瞬点灯したり、エンジンがストール(停止)してしまうのを防止します。

- **オートライトアダプター**
トヨタ・日産車のオートライト機能付き車両の一部で、オートライトポジションでのリモコン始動が問題なく行えます。
- **キーレスアダプター(ミツバG-System)***
本商品を取り付けることでエンジンスタートのリモコンによりドアをLOCK/UNLOCKが出来ようになります。一部の車種ではモーターキット(別売品)が必要になります。必ず事前にEGSシリーズ適応車種一覧表を確認して下さい。
- **Gシステム対応盗難警報機シリーズ**
Gシステム対応の盗難警報機を追加する事が出来ます。この場合、本機のリモコンで警報機を制御(セット/リセット)することが出来ます。
*「ミツバG-System」については下記を参照して下さい。

「ミツバG-System」について

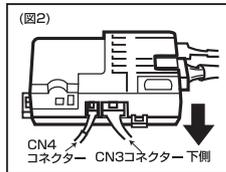
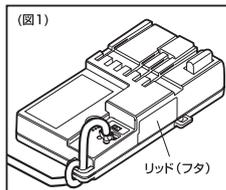


「ミツバG-System」とは、対応商品どうしを組み合わせることにより、プラスアルファの機能が実現出来るように設計されたグレードアップ対応システム商品です。今後、「ミツバG-System」対応商品は随時発売する予定になっています。「ミツバG-System」対応商品を追加接続する場合、別売の接続ハーネスが必要となる場合があります。接続及び取り扱いに関しては、別途、各商品に付属の取扱説明書をよくご覧下さい。

本機は、「ミツバG-System」対応の盗難警報機やキーレスアダプターを取り付けることで、リモコン操作による盗難警報機の制御や、ドアのLOCK/UNLOCKを行うことが出来ます。お取り付けには、「ミツバG-System」商品に付属の取扱説明書をよく読んで行って下さい。一部の車種ではお取り付け出来ない場合もあります。必ず「EGSシリーズ適応車種一覧表」でご確認下さい。



- 「ミツバG-System」対応商品を取り付ける場合、エンジンスタート本体のリッドを外す必要があります(図1)。それ以外ではリッドは絶対に外さないで下さい。必ずパワースイッチを切って8Pケーブルを取り外してからリッドを外して下さい。そのまま作業しますと、電源ショート等により、故障したり発火する恐れがあります。
- リッドの取り外しは、精密ドライバー等で端からはがすように行って下さい。その際ケガをしないように充分注意して行って下さい。
- 「ミツバG-System」対応商品を取り付けた後エンジンスタート本体を設置する場合は、CN3、CN4コネクタ一面が必ず下を向くようにし、異物が入らない様にして下さい(図2)。



オプション

本機のリモコンで「ミツバG-System」対応商品を操作する場合

リモコンのACCスイッチを押すことで制御出来ます。リモコンのACCスイッチは押す毎に「ビー・ピッ」と「ビビビッ」の発音音を交互に繰り返します。

■各操作の一例

	「ビー・ピッ」の時	「ビビビッ」の時
発信音	「ビー・ピッ」の時	「ビビビッ」の時
盗難警報機	警報セット	警報リセット
キーレスアダプター	ドアLOCK	ドアUNLOCK



キーが「ON」の位置になっている時は、ACCスイッチによる操作は受け付けません。また、本体のパワースイッチを切っている時や、スリープ機能が働いている時は、ACCスイッチによる操作は受け付けません。盗難警報機の制御は「セット」と「リセット」のみとなります。

電池の交換方法

リモコンは新品の電池で約3000回*以上使用出来るように設計されており、使用中、電波到達距離が短くなってきたら電池を交換して下さい。また、商品に添付されている電池はテスト用のものですので、3000回以内に電池交換が必要になる場合があります。

*使用温度によっては若干少なくなります。

ステップ1

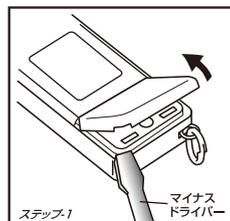
電池蓋を外します。

マイナスドライバーの先端等で電池蓋の端を引き上げるようにして外して下さい。



注意

外す際に、マイナスドライバーの先端等でケガをしないよう、ご注意ください。



ステップ2

電池を交換します。(アルカリボタン電池LR44×2個)

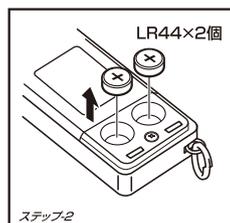
電池のプラス、マイナスの向きに注意して交換して下さい。

電池のプラス面が蓋側となります。



注意

電池を交換の際は、2個とも新品の電池に交換して下さい。



ステップ3

電池蓋を閉じます。

電池のプラス、マイナスの向きが合っていない場合は、電池蓋がうまく閉じませんので、ご注意ください。

ステップ4

交換後、リモコンの動作確認を行って下さい。

リモコンを紛失したときは

リモコンを紛失または修理不可能な破損をした場合は、リモコンのみ購入が出来ます。この場合、新しいリモコンのIDコードをエンジンスターター本体に登録する必要があります。詳しくは別売リモコンに付属の説明書をご覧ください。リモコンは、販売店または取扱店へご注文下さい。



リモコンのID登録はエンジンスターター本体側の操作で行います。従ってエンジンスターター本体をお送り頂く必要はありません。なお、登録出来るリモコンは1台分のみとなりますので、元のリモコンは使用出来なくなります。(スペアリモコンとしての設定は出来ません。)

故障かな？と思ったら

このような時	チェックして下さい	処置
リモコンのSTARTスイッチを押しても音が鳴らない。	スイッチを押す時間が短くありませんか？	0.5秒以上スイッチを押して下さい。
	リモコンの電池は消耗していませんか？	電池を新品に交換して下さい。
リモコンのスイッチを押してもまったく作動しない。	車のキーがONになっていませんか？	キーを抜いて下さい。
	車のバッテリー端子が外れていませんか？	端子を接続し「オートマチック車の登録」を行って下さい。
	15日以上エンジンの始動を行わない状態でしたか？	スリープモードになっています。パワースイッチを一旦切って入れ直すか、キー操作でエンジンを始動させて下さい。
	車のバッテリーは弱っていませんか？	バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
	ドアが開いていませんか？(運転席のドアスイッチ配線を行った場合)	ドアを閉めて下さい。
	ボンネットが開いていませんか？(別売ボンネットスイッチを取り付けた場合)	ボンネットを閉めて下さい。
	フットブレーキへの配線(必要時)が間違っていますか？	正しく配線して下さい。
エンジンスターター本体から『ブーブツ、ブーブツ…』音が鳴っていて、リモコンのスイッチを押しても、まったく作動しない。	バッテリー端子を外したり、バッテリー交換を行いましたか？	オートマチック車の登録情報が消去されています。再度「オートマチック車の登録」を行って下さい。 詳しくはP.10を参照して下さい。
	ヒューズ交換、専用ハーネスとのカブラー脱着及び黒色アース線の再接続を行いましたか？	
リモコンのSTARTスイッチを押すとメーターパネルは点灯するか始動しない。	車のシフトレバーがPレンジに入っていますか？	シフトレバーをPレンジに入れて下さい。
	車のバッテリーは弱っていませんか？	バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
	専用ハーネスのアース線は車体の金属部分へ確実に接続されていますか？	適切な場所に接続し直して下さい。
リモコンのSTARTスイッチを押すと始動動作中にエンジンスターター本体から「ピーピーピーッ」と音がして停止してしまう。	専用ハーネスのアース線は車体の金属部分へ確実に接続されていますか？	適切な場所に接続し直して下さい。
	車のバッテリーは弱っていませんか？	バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
リモコンのSTARTスイッチを押すと始動動作を行うが、エンジンがかからない。	オルタネーター(L端子)配線を行いましたか？	オルタネーター(L端子)配線を行って下さい。 詳しくはP.12を参照して下さい。
	車のバッテリーは弱っていませんか？	バッテリーを点検し正常な状態にして下さい。
	専用ハーネスのアース線は車体の金属部分へ確実に接続されていますか？	適切な場所に接続し直して下さい。
エンジンスターター本体のパワースイッチをONにしても電源が入らない。	エンジンスターター本体のヒューズが切れていませんか？	ヒューズを交換して下さい。
	専用ハーネスのカブラーが外れていませんか？	カブラーを確実に差し込んで下さい。
	専用ハーネスの黒色アース線が外れていませんか？	黒色アース線を確実に接続して下さい。
始動距離が短くなった。	リモコンの電池は消耗していませんか？	電池を新品に交換して下さい。
	リモコンのアンテナは伸ばしてありますか？	リモコンのアンテナを伸ばして下さい。
	リモコンのアンテナに体の一部が触れていませんか？	操作の際はアンテナに触れないようにして下さい。
ターボタイマーが作動しない。	ターボタイマーの設定をしましたか？	ターボタイマーの設定をして下さい。
	車を30秒以上走行させましたか？	30秒以上走行して下さい。
	フットブレーキへの配線(必要時)を行っており、フットブレーキを踏んだままキーをOFFにしていますか？	フットブレーキを踏まずにキーをOFFにして下さい。
	車のシフトレバーがPレンジ以外に入っていますか？	シフトレバーをPレンジに入れて下さい。
	ボンネットが開いていませんか？(別売ボンネットスイッチを取り付けた場合)	ボンネットを閉めて下さい。

故障かな？と思ったら

このような時	チェックして下さい	処 置
リモコンのSTARTスイッチを押してもエンジンが始動せず、警告音「ピーッピーッ…」が鳴り続ける。	車のシフトレバーがPレンジ以外に入っていないですか？	シフトレバーをPレンジに入れて下さい。
	車のキーがACCになっていませんか？	キーを抜いて下さい。
	専用ハーネスの品番は正しいですか？	「EGSシリーズ適応車種一覧表」を再度確認して下さい。車の車種名・年式・型式を照合後、品番が正しい場合はユーザーサービス係までお問い合わせ下さい。 ★警告音はキーをONにすれば停止します。

仕様

リモコンのブザー音について

(各種機能設定 [ターボタイマー設定、アイドルリング時間設定等] を除く。)

スイッチ操作	ブザー音	意 味
START	ビッ	エンジンの始動
STOP	ビー	エンジンの停止
ACC	ビーッ・ビッ	オプション制御① (キーレス:LOCK・警報機:セット)
	ビビビッ	オプション制御② (キーレス:UNLOCK・警報機:リセット)

エンジンスターター本体のブザー音について

(オートマチック車登録、キー始動学習を除く)

ブザー音	意 味
ブッブッ	電源が入った場合。
ブッ	リモコンによるエンジン始動を自動検出した場合。オルタネーター (L端子) 配線が正しい場合。
ブッ	リモコンでエンジンが始動した場合。
ブッ ~ ブー	リモコンでエンジン駆動中。 リモコンでエンジン始動直後から数秒間隔で鳴り始め、残り時間に連動して短くなります。 自動停止直前 (1分前) は連続音になります。
ブブッ	スリープから復帰した場合。
ビービー	リモコンでエンジンが始動しない場合。
ビービービー	リモコンでエンジン駆動中にエンストした場合。
ビービービービー	専用ハーネスの黒色アース線接続状態、またはバッテリーの状態が悪い (悪くなった) 場合。
ビー・ビー …… (繰り返し)	車との相性が悪い (悪くなった) 場合。 *ユーザーサービス係へお問い合わせ下さい。 ★警告音はイグニッションキーをONの位置にすれば停止します。

エンジンスターター本体部のモードスイッチについて

(商品出荷時は全てOFFとなっております。)

スイッチ番号	モードメニュー	OFF	O N
1	シフト検出	自動検出	キャンセル (通常使用しません。) *フットブレーキへの配線が必要です。(P.15の「フットブレーキ検出方式への変更」を参照。)
2	始動検出	自動検出	オルタネーターのL端子線の変化のみで、エンジンの始動状態を検出する *L端子線への配線が必要です。(P.12の「L端子検出方式への変更」を参照。)

●リモコン

■型式名	TX-07M
■技術基準	ARIB標準規格 テレコントロール用 無線設備適合
■送信周波数	426MHz帯の10波のうち1波使用
■通信方式	単方向通信方式
■送信出力	1mW以下
■電波方式	MSK変調1200bps
■呼出名称	送信時自動送出
■周波数安定度	±4ppm以下
■周波数偏移	±2.5KHz
■スイッチ	START/STOP/ACC
■重量	25g(電池含む)
■送信確認方式	ブザー
■送信時間	3秒以内
■送信休止時間	2秒以上
■送信アンテナ	内蔵ロッドアンテナ
■制御コード	アドレスコード32ビット/ コントロールコード8ビット
■動作温度範囲	-20°C～+60°C
■定格電圧	DC3V
■使用電池	アルカリボタン電池 LR44×2個
■電池寿命	電池交換無しで3000回以上送信可能
■外観寸法	67.5mm(H)×30.5mm(W)×12.8mm(D) (突起部除く)

●エンジンスターター本体

■型式名	RX-07M
■受信周波数	426MHz帯の10波のうち1波使用
■受信感度	-9dbμV以下
■局発安定度	±4ppm以下
■アンテナ	1/4λ室内アンテナ
■動作温度範囲	-20°C～+70°C
■復調コード	アドレスコード32ビット/ コントロールコード8ビット
■電源電圧	最低動作電圧DC8.5V 最高動作電圧DC16V
■外観寸法	26.5mm(H)×120mm(W)×70mm(D) (突起部除く)
■消費電力	通常待機時平均10mA以下 スリープモード時700μA
■始動検出	専用ハーネス(自動) オルタネーターL端子(選択)
■安全対策	パーキングポジション(自動) フットブレーキ(選択) ドア開放(任意)、ボンネット開放(任意)
■ヒューズ	自動車用ブレードヒューズ20A
■タイマー	20分後自動停止(設定により10分/30分変更可能)
■重量	140g

※仕様及び外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

※この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

〈保証規定〉

本商品は、厳重な品質管理のもとに製造され、検査に合格し、出荷されておりますが、お客様の正常な状態でのご使用中、万一故障が発生した場合には、本保証書に記載の内容に基づき、無償修理をさせていただきます。

- 修理は、お買い求め頂いた販売店に、本保証書および不具合内容等を記入したメモ等を添えてご依頼願います。
- また、修理の際は必ずリモコンとエンジンスターター本体をセットでお渡しください。(リモコンのみでは修理できません)
- 本保証書は日本国内に於いてのみ有効です。This warranty is valid only in japan.
- 本保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。
- なお、下記に該当する場合は、保証期間内であっても保証の対象とはなりませんのでご注意ください。
 - 1.お客様の故意または過失による故障と認められた場合。
 - 2.商品を分解したり改造したりした形跡が認められた場合。
 - 3.火災、天災、事故、その他紛争等による損傷。
 - 4.適応外車両へのお取り付けや当社専用ハーネスをお使いになっていない場合。
 - 5.取付・取扱説明書中の注意事項を守られなかったことにより発生した故障、損害等。
 - 6.保証書の添付がないか、あるいは記載事項に不足がある場合。

- 消耗部品(電池、アンテナ等)やリモコンのケース破損は保証対象外です。
- 修理によって生じた交換部品は原則としてお返しいたしません。
- 本商品の製造終了後5年以降は使用電子部品の製造中止等により修理不能になる場合がありますので予めご了承ください。
- ※保証期間経過後の修理については、当社ユーザーサービス係までご相談ください。

修理によって機能の維持が可能な場合は、お客様のご要望により有償修理致します。

アフターサービスについて

使用中に正常に作動しなくなった時は、まず本文の「故障とお考えになる前に」を参考にしてチェックして下さい。「処置」を行っても改善が見られない時は、お買い上げ店、または当社ユーザーサービス係にお申し付け下さい。

保証をお受けになる場合、お買い求め頂いた販売店、もしくはユーザーサービス係に不具合内容を具体的に提示の上、エンジンスターター本体とリモコンをセットにして、保証書、車検証のコピーと共に送って下さい。なお、保証範囲につきましては、保証規定をご覧ください。

保証対象外の修理について、保証期間を過ぎた場合や、使用上の不注意による故障等、保証の対象にならない場合の修理については、有償となります。詳しくは、当社ユーザーサービス係までご相談下さい。

リモコンエンジンスターター EGS-G3 取付・取扱説明書

Y-28056-00